



「虎年に思う」

理事長 小林 寿夫



明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、令和4年のお正月を健やかに
お迎えになったことと思います。

昨年もまたコロナに振り回された一年でした。なごみ苑では、一昨年同様1人の感染者も出
さずに一年を乗り切ることが出来ました。皆様方の御協力なしでは出来なかったことであり心
から感謝申し上げます。

今年の干支は虎であります。覇者の風格と勇ましく猛々しいその姿に、古来人々は憧れと畏
敬の念を持ったと言われていました。十二支を選んだ神様は、獅子を選ぶつもりだったらしいの
ですが、獅子はひどい悪事を働いていると聞き、代わりに人間に害を及ぼす獣たちを退治する
トラをネズミ、ウシに続く3番目というポジションに置き、獅子は遠い南の国へ追いやられた
そうです。また、虎は自分の子供をととても可愛がって大切に育てることから、大事にして手元
から離さないものを「虎の子」と言うそうです。虎にちなんだことわざもたくさんあります。

虎穴に入らずんば虎子を得ず（危険を避けてばかりいては大きな成果は得られない）

虎に翼（もともと強いものに、さらに強い武器や能力が加わり、さらに強くなること）

虎は死して皮を留め、人は死して名を残す（虎は死んでも立派で美しい皮を残すように、人
は死んだあと名が残るような生き方をしたいものだ）

群羊を駆りて猛虎を攻む（羊のような弱いものでも集団であたれば猛虎のような強者を攻め
ることができる）

あらためて読んでみると、夫々が含蓄のあることわざであると思います。

昨年末に1985年の阪神タイガースの優勝の番組をNHKで見て、当時を振り返りながら感
動を思い出していました。因みに自分は村山実投手、吉田義男選手の頃からのタイガースファ
ンであり、巨人に時々勝った時には望外の喜びを感じていたものでした。

虎に関して気の赴くままにいろいろ書きましたが、今年もコロナとの戦いは続くと予想され
ます。虎に負けないような力強さで周山会なごみ苑職員一同頑張っていきたいと思っています。

本年もよろしく願い申し上げます。

「2022年 年頭所感」

施設長 佐々木 正



明けましておめでとうございます。昨年9月30日、新型コロナ第5波緊急事態宣言が解除
され、その後、感染者は更に減少、逼迫した医療も改善され、いろんな制限が大幅に緩和され
ました。高率なワクチン接種と日常の感染予防の定着が実を結んだのでしょうか。

黒雲の切れ間から射す光、そのありがたさが心に沁みます。年末年始の第6波襲来を懸念し
ながら、このまま終息に向かって欲しい！誰もが願っていました。しかし、アメリカやイギリ
ス、ヨーロッパでは、死者や重症者が減少してもコロナの波は少しも治まりません。どうして？
国民性の違い、文化の違いでしょうが、“個人と社会（国）の関係”にあるのだと思います。“個
人の権利の尊重”は民主主義の根幹です。感染が個人で対処、対応できる状況なら理解できま
す。しかし、パンデミック！世界の新型コロナ感染者数：2億8千万人、死者数：540万人。
緊急事態発生！国家崩壊の危機！それでも、ワクチン接種反対！外出、行動の制限反対！さら
に賛成派と反対派が対立、衝突！それは、国や社会が分断されたのではなく、分断の上に成り
立っていたのです。海の向こうのよその国の話、われら関係ず！と思いながらも、多様性が叫
ばれている私たちの社会。価値観も生き方も個人中心、マイホーム中心が根付いてきていま
す。知らないうちに、気がつかないうちに、分断が進んでいるのでしょうか？そんな時、デルタ株に
代わってオミクロン株が南アフリカから報告、あっという間に世界各国に広がり、日本国内に
も入ってきて、各地で市中感染が……。第6波襲来の懸念！ブレークスルー感染も見られ、
なごみ苑は年明け早々から3回目のワクチン接種を行う予定です。

黒雲が去り、まばゆい太陽の下、マスクなしの笑顔で、新春を迎えたいものです。

「ウシさん、お疲れさま！大変な1年だったですね！」「トラさん！モウ疲労困憊！しばらくお
休みします。トラさん！なんとか虎口を脱して佳いお年を！」